

2025/5/12 (月)

朝の礼拝

聖書 詩編 23 編 1-4 節 (旧約聖書 839 頁)

主は私の羊飼い。
私は乏しいことがない。
主は私を緑の野に伏させ
憩いの汀に伴われる。
主は私の魂を生き返らせ
御名にふさわしく、正しい道へと導かれる。
たとえ死の陰の谷を歩むとも
私は災いを恐れない。
あなたは私と共におられ
あなたの鞭と杖が私を慰める。

主は羊飼い

聖書には旧約と新約がありますが、イエスが登場するのは新約、その前に約1300年から1500年の旧約の歴史があります。彼らはヘブライ人、古代イスラエル人、ユダヤ人と民族の名前を変えていきます。でも彼らの歴史で国家として独立したのはわずか100年です。彼らの先祖も、祖国を失ってからも彼らはこの世の寄留者、旅人でした。

彼らの生活はベドウィン（半遊牧民）と呼ばれ水と緑に覆われた都会ではなく、草木や水辺のない荒涼とした荒れ野でした。彼らは羊や山羊を飼い、自分自身の命をつなぐ糧と水を求める旅を続けました。テントを張り、ベッドや枕は石でした。昼夜の寒暖差は厳しく、また野獣や強盗が羊や山羊、彼らの命を狙っていました。

この世に頼るものは何もありませんでした。彼らには明日を思い煩うよりも、一日一日生き延びることがすべてでした。彼らの羊たちとの絆は、いつしか自らを羊に、旅路を守り導く存在を羊飼いにたとえ、絆を深めっていったのです。そして冒頭にあるように、朝に夕に「主は私の羊飼い」と呼びかけ祈るようになったのです。

とても弱く、迷子になりやすい羊の群れを、羊飼いたちは鞭や杖で導きました。それと同じように生きるというのは何もない荒れ野を旅するように厳しいもので、自分たちを守る存在が厳しく導いているんだと感じたのです。でも必ず「緑の野に伏させ、憩いの汀に伴われる」と信じ従っていたのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、五月を迎え、恵みの雨と豊かな緑を与えられるようになりました。あなたは自らを羊飼い、そして弱く、迷いやすい私たちを羊にたとえられました。どうか私たちも明日をもわからない日々の中にあっても、あなたが共にいて守り導かれることを信じ、あなたに従う幸いに与らせてください。英和生は各学年、学校を離れ、さまざまな体験を通して学びを深めています。今、研修を続けている高校二年生、そして各学年、事後学習に取り組み、今後の成長につなげてください。また心身に苦しみや痛みを覚える人々にいやしのみ手を伸ばし、共に感謝を献げる日がひとときでも早く訪れますようにしてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン